

# 「スマートシティ実装化支援事業(柏の葉スマートシティコンソーシアム①)」実証実験概要

## ■都市課題

医療機関における待ち時間の軽減と、街での待ち時間の生産性向上を図るための仕組みの構築

## ■解決方策

病院情報システムと街のサービスを国際標準規格(HL7 FHIR)にてデータ連携し活用

## ■KPI

HL7 FHIRによるAPI連携設計、システム連携とコスト削減の効果検証、社会実装する上での課題の抽出

## ■実証実験の概要・目的

病院情報システムと街のサービスとのデータ連携に向けたAPI連携を国際標準規格(HL7 FHIR)にて行い、システム間のデータ連携を推し進めることで、遠隔チェックインシステムの大規模実証の実現の加速化を目指す。また国際標準規格を用いることで、データの外部連携を可能とするとともに、他地域への横展開可能性の向上にも資することができる。

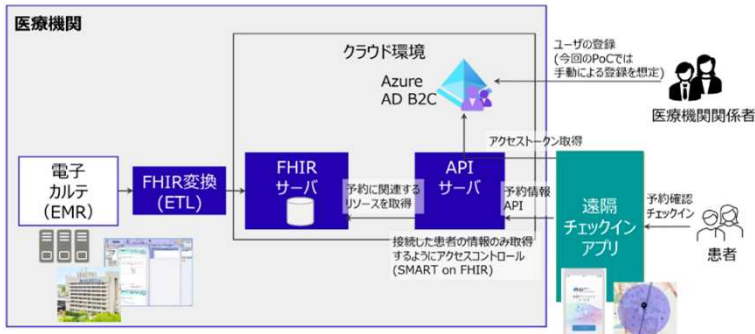
## ■実証実験の内容

1. 病院情報システムのデータをHL7 FHIR化  
FHIR規格にて連携可能な情報について以下に示す。通院に必要な予約に関する情報については網羅的にデータ連携を行う。

種類	取得元情報	予約日付	開始時刻	終了時刻	予約枠名	関係者
再診	予約情報	○	○	○	○	医師
リハビリ	予約情報	○	○	○	○	リハビリ理学療法士
検査、画像検査、内視鏡、注射、生理検査	予約情報	○	○	○	○	-

### 2. システム構成

病院情報システムの予約情報データをFHIR変換。遠隔チェックインアプリ利用者は利用者認証を行うことで本人のみの情報を取得できる。



## ■実証実験で得られた成果・知見

1. 病院情報システムの情報をFHIR化し、街のサービス連携することで、患者が通院に必要な予約情報を、遠隔チェックインアプリとデータ連携が実施できた。
2. 街のサービスとの親和性  
FHIR APIはデータ構造化されておりWeb技術を用いた相互運用性を確保できるリソースなため、遠隔チェックイン以外の街の各種サービス(ワークスペース、MaaS)との親和性も高いと考えられる。
3. その他の成果  
コスト削減の可能性の拡大や、病院システムとの連携によるコンセプト実現の方向性についても確認できた。

## ■今後の予定

1. FHIRでの予約情報の連携の仕組みを活用し、利用者を拡大して実証実験を実施。
2. 多様な街の施設との連携可能性の検討、再来機削減への取り組みの推進。